

被害を減らすために

県では、施設整備により災害による被害を未然に防ぐとともに、市町と連携し、災害の危険箇所の周知や防災情報の発信など、災害時の住民の避難を支援する取り組みを行っています。

災害の危険のある箇所の公表・利用の推進

土石流やがけ崩れなどの土砂災害や河川の氾濫などから身を守るためには、あらかじめ身の回りの危険な場所を把握し、安全な場所に避難することが重要です。お住まいの地区が危険な場所になっていないか、県や市町のウェブサイトで事前に確認しておきましょう。

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

土砂災害が発生する恐れがある箇所を指定・公表しています。



土砂災害警戒区域 土砂災害発生時に生命または身体に危害が生じる恐れがある区域(黄色の範囲)

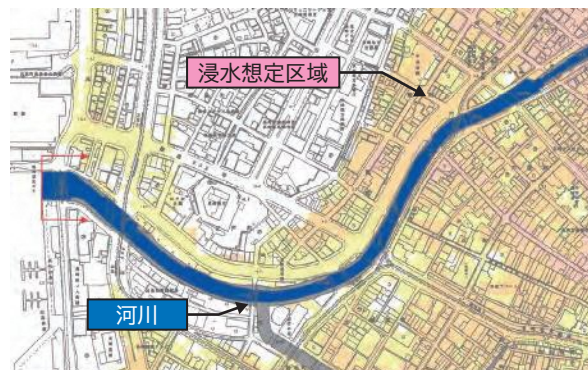
土砂災害特別警戒区域

警戒区域の中でも建築物に損壊が生じ、生命または身体に著しい危害が生じる恐れがある区域(赤線で囲んだ範囲)

問合せ 県の砂防課 ☎095-894-3076

洪水浸水想定区域

河川氾濫時に浸水する恐れがある箇所を指定・公表しています。



浸水想定区域

河川が氾濫した場合に、浸水の恐れがある区域(色付けしている範囲)。浸水した際に見込まれる水面から地面までの深さで色分けして表示している

問合せ 県の河川課 ☎095-823-3280

防災情報の発信

県のウェブサイトでは防災情報を随時発信しています。大雨や台風が接近した際など、お住まいの地域の防災情報をご確認ください。

長崎県防災ポータル

避難情報や避難所開設情報のほか、気象警報・注意報、ハザードマップなどが確認できます。



長崎県河川砂防情報システム(NAKSS)

河川水位や雨量情報、土砂災害危険度情報、県が管理する河川監視カメラの画像などが確認できます。



避難情報の発令

集中豪雨や台風などで災害が発生する恐れがある場合、皆さんを災害から守り、被害拡大を防ぐため、各市町から避難情報が発令されます。避難情報が発令されたら速やかに適切な避難行動を取りましょう。

警戒レベル	避難情報と取るべき行動
5	緊急安全確保:既に災害が発生・切迫。直ちに身の安全を確保しましょう。
4	避難指示:災害発生のおそれ高い。速やかに危険な場所から避難しましょう。
3	高齢者等避難:避難に時間のかかる人とその支援者は避難しましょう。
2	大雨・洪水・高潮注意報:避難に備え、自らの避難行動を確認しましょう。
1	早期注意情報:気象状況の悪化に備え、災害への心構えを高めましょう。

問合せ 県の防災企画課 ☎095-895-2143

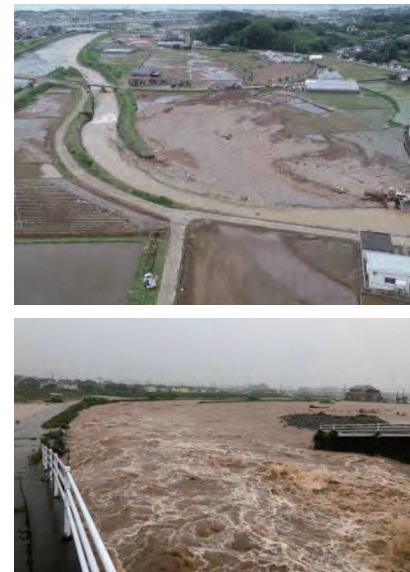
避難のタイミングと避難場所を事前に確認せんば。



特集 災害を防ぎ、災害に備える

近年、台風や大雨による災害が激甚化・頻発化する中、今年1月に能登半島地震で甚大な被害が発生するなど、自然災害の脅威が身近に迫っています。

本県では、災害に強い長崎県を実現するため、「みんなで取り組む災害に強い長崎県づくり条例」を定め、県民・事業者・県・市町・防災機関がそれぞれの役割の中で、助け合いながら防災・減災対策を推進しています。



令和2年7月豪雨による佐奈河内川周辺の被害状況【大村市】



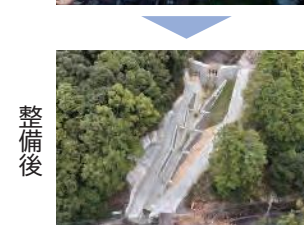
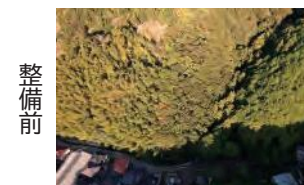
佐奈河内川の改良復旧工事後の状況【大村市】

令和2年7月の梅雨前線豪雨では、県央地区を中心に甚大な被害を受け、特に大村市の佐奈河内川周辺では堤防決壊を伴う河川氾濫により、家屋浸水209戸、宅地61haが冠水するなどの大規模な被害が発生しました。県では、再度の被害を防ぐために改良復旧工事を進めています。

被害を未然に防ぐために

土砂災害対策施設の整備

土砂災害による被害を未然に防止するため、土石流を防ぐ砂防堰堤やがけ崩れを防ぐ法面工などの施設を整備しています。



砂防事業【長崎市】



急傾斜地崩壊対策事業【対馬市】

ダムの整備

新しいダムの整備に加え、既存ダムを有効活用した改造により機能強化などを図るダム再開発に先進的に取り組んでおり、これまで5基のダム再開発を行ってきました。現在、約80年前に水道専用ダムとして造られた浦上ダムに洪水対策機能を追加する再開発事業を実施しています。



浦上ダム建設事業【長崎市】
完成イメージ図

地震から命を守るために

地震からあなた自身や家族を守るためには、日頃の備えが大切です。自宅で揺れを感じたら、外に飛び出さずに身の安全を確保し、揺れが収まってから火の始末をしましょう。また、いざという時のために、日頃から家族で話し合って地震の時の動きを決めておき、小さな地震が起きた際にも実行し、習慣づけましょう。

3日分の水・食料・生活用品の保管

地震直後の避難での携行品は背負える範囲のものにとどめましょう。地震が一段落してから避難生活拠点へ運び、利用できるよう、3日分の水などをコンテナに入れて物置や車内、玄関など複数箇所に分けて保管しておきましょう。

避難経路の確認

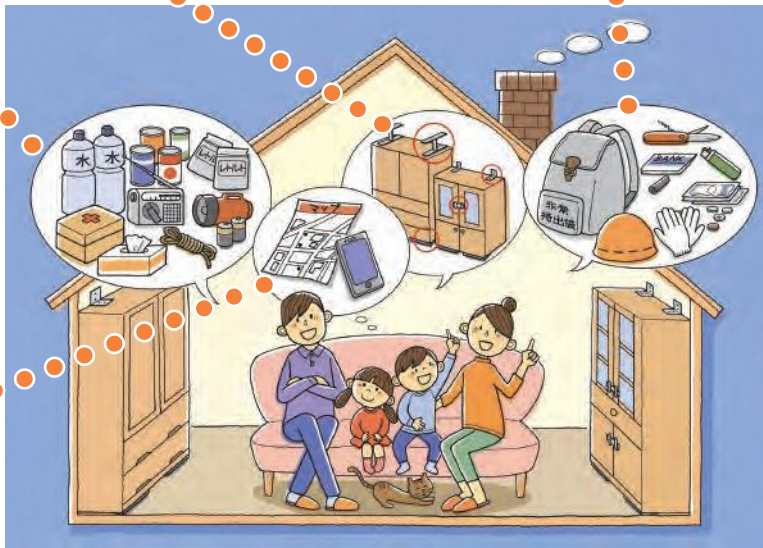
近所の指定緊急避難場所や指定避難所などを確認し、避難経路を歩いてみましょう。また、家族が離れ離れになった時の連絡体制を事前に決めておきましょう。

家具の固定で命を守る

金具や突っ張り棒などで家具の転倒、落下、移動を防止しましょう。特にリビングと寝室では、万が一家具が倒れても人に当たらない安全ゾーンを確保することが大切です。

非常用持ち出し袋の準備

家族構成に応じてあらかじめ準備しておき、玄関近くや寝室、車の中、物置などに置いておきましょう。非常用持ち出し袋の中身は以下のチェックリストを参考にしてください。



参考：国立研究開発法人防災科学技術研究所「そのときに備えて」

実際に地震が起きたら

①慌てて戸外に飛び出さない

戸外は窓ガラスやタイルなどの落下物が多く、危険です。揺れが収まって外に出るときも周囲を確認しましょう。



②丈夫なテーブルの下に身を隠す

揺れを感じたら丈夫な机やテーブルなどの下に身を隠し、落ち着いて次の行動を考えましょう。



③揺れが収まってから火の始末

揺れている間は熱湯や油でやけどをする恐れがあります。揺れが収まってから慌てずに火の始末をしましょう。



④狭い路地・塀の近くを避ける

ブロック塀などは倒れる危険性があります。屋外で地震に遭ったら、広い道や庭などに避難しましょう。



非常用持ち出し袋チェックリスト

子どもや高齢者がいる家庭、女性の方はチェックリストに加えて必要なものを準備しましょう。

- | | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|
| ☐ 飲料水、非常食 | ☐ 携帯ラジオ | ☐ 軍手 | ☐ 手指消毒用アルコール |
| ☐ 防災用ヘルメット | ☐ 予備電池・携帯充電器 | ☐ 洗面用具 | ☐ 石けん・ハンドソープ |
| ☐ 衣類・下着 | ☐ マッチ・ろうそく | ☐ 歯ブラシ・歯磨き粉 | ☐ ウェットティッシュ |
| ☐ レインウェア | ☐ 救急用品 | ☐ ペン・ノート | ☐ 体温計 |
| ☐ 紐なしの靴 | ☐ 使い捨てカイロ | ☐ タオル | ☐ 貴重品 |
| ☐ 懐中電灯 | ☐ ブランケット | ☐ マスク | |



詳しくはこちら

参考：首相官邸「災害の『備え』チェックリスト」

能登半島地震を受けて

令和6年能登半島地震では、多くの道路の交通が遮断され、物資や人材の輸送が滞るなどの半島地域特有の課題が浮き彫りとなりました。

本県も、離島・半島地域を多く有しているほか、急峻な地形が多く、風水害や土砂災害により交通が遮断され孤立する地域が生じる恐れがあります。自然災害に備えた治水対策や土砂災害対策とともに、災害発生時の代替道路や物資輸送の拠点となる港湾の整備などを促進する必要があります。

道路の寸断などに対応した防災対策

県では、道路の寸断などに対応するため、以下のような取り組みを行っています。

災害に強い交通ネットワークの構築

県では、経路の選択枝を増やすため、国道と並行する道路の整備に取り組んでいます。

例えば、高規格道路「西九州自動車道」の一部である松浦佐々道路は、北松地域唯一の幹線道路「国道204号」の代替路線としての機能を持っています。令和3年8月豪雨の際には、国道204号が山腹崩壊で全面通行止めとなりましたが、西九州自動車道が迂回路として機能し、交通を維持することができました。

問合せ 県の建設企画課 ☎095-894-3021



陸・海・空での対応

長崎県地域防災計画では、救助や物資などの輸送を行う際に、陸路に加え、海路や空路を活用することを定めています。県では、これらを有効に機能させるため、防災ヘリコプターの運用や、防災訓練などを通じた自衛隊・海上保安庁などの関係機関との連携強化、有事の際、即時に対応可能な体制の維持強化、市町と連携したヘリコプター離発着場所の確保などに取り組んでいます。



長崎県総合防災訓練の様子(自衛隊)



海上保安庁「巡視船でじま」



長崎県「防災ヘリコプターながさき」

問合せ 県の防災企画課 ☎095-895-2143

県では、激甚化・頻発化している自然災害から県民の皆さまの生命・財産を守るため、防災・減災対策に取り組んでいます。この度の能登半島地震を受け、いつ、どこで発生するか分からない災害に備え、準備をしておくことがいかに重要であるかを改めて認識したところです。

県民の皆さまにおかれても、災害をご自身の事として捉え、情報収集や早めの避難、そのための日頃からの準備をお願いします。



長崎県知事
大石賢吾